

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800220		
法人名	株式会社エルエス		
事業所名	グループホーム香椎下原		
所在地	福岡市東区下原2丁目15番31号		
自己評価作成日	令和6年3月8日	評価結果確定日	令和6年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス
所在地	福岡市南区井尻4-2-1 TEL:092-589-5680 HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和6年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

今年の4月で13年目を迎えるとしております。地域密着型サービスで閑静な住宅街に位置し四季折々の季節を感じられる自然環境に恵まれた施設です。隣接する小規模多機能ホーム、住宅型有料老人ホーム、デイサービス、訪問介護などと連携を取りながら、その方の生活スタイルに合った環境を提供できるよう努めてまいります。新型コロナの感染防止の観点から面会は玄関にてして頂いておりましたが、令和6年3月より居室での面会を再開致しました。これから様子を見ながら外出、外泊もして頂けたらと思っております。また、外出レクも企画していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム香椎下原」は平成24年4月に開設。隣接する小規模多機能施設・住宅型有料老人ホーム・デイサービス・訪問介護などと連携を取りながら、その方の生活スタイルに合った環境を提供できるように努めている。閑静な住宅街に位置し、四季折々の季節を感じられる自然環境に恵まれている。近隣に公民館・保育園があり、小規模多機能施設に保育園児の訪問があった。公民館との繋がりも深く、地域の行事に参加する計画がある。令和6年3月より居室への訪問も再開した。4月には香椎宮の桜を見に行く予定である。今後も地域との交流を図り地域福祉の拠点となる事が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に唱和を行っている。また名札の裏にも事業所理念を載せており、職員全員が理念に基づいたケアが実践出来るよう取り組んでいる。	法人の理念は「ハッピースマイル」であり、事業所理念は4つの柱からなる。理念は各フロアに掲げてあり、毎日の申し送り時に唱和する。ミーティング時に理念について話し合う。名札裏にも理念をのせている。職員は個人目標を立て、理念に沿ったケアを実践している。小規模多機能施設・住宅型有料老人ホーム・グループホーム・デイサービスの管理者が集まりそれぞれの入居状況と共に理念についての話し合いが行われている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響で中々交流が出来なかったが、来年度からは地区の防災訓練や公民館の行事に参加する計画である。	自治会長・公民会長との交流はあり、町内の清掃や廃品回収などに参加し、利用者もできる範囲で参加している。こどもが困ったときに立ち寄ることができる「こども110番」の看板を掲示している。来年度からは地区の防災訓練や公民館行事などに参加する計画がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナのため地域の方との交流は中々出来ない状況であったが、今後は地域の集まりに積極的に参加していく。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回(2か月毎)の開催にて、施設での取り組みや実績報告等を行い、ご意見を集計しサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は二か月に1回開催している。年2回は小規模多機能施設と合同で行なっている。案内及び議事録も送付しており、家族・組合長・民生委員(3人)・包括・社協・医療機関・薬局・事業所代表・管理者などの出席がある。事業所の状況・取り組み・実績報告などを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を福岡市に送付し施設の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。	運営推進会議の議事録は福岡市の事業者指導課に郵送し、事業所の実情・ケアサービスの取り組みなどを伝えている。BCPの報告も行った。保護課の方との繋がりもある。運営上で困っていることや疑問点がある時は相談をしたり、アドバイスを受けたり、協力関係を築くように取り組んでいる。介護保険の更新申請は郵送している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職員に入職時に行い、また定期的に内部研修を行い議事録を残し身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設け、三か月に1回研修を行っている。新人職員には入職時に行う。月ごとに内容を定め担当制にして「接遇に関して」「認知症ケア研修」「高齢者虐待」などの研修を行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関は防犯上の理由から施錠している。		

R6.3自己・外部評価表(グループホーム香椎下原)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な内部研修にて学ぶ機会を設け、高齢者虐待が見過ごされることがないように努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な内部研修にて学ぶ機会を設けている。以前は成年後見制度をご利用していた方がおられたが現在はいない。	内部研修は担当制にしており、学びながらそれぞれ理解を深めている。パンフレットも常備している。制度の利用を希望された時は管理者が窓口になり、市・包括支援センターなどに相談する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には「重症事項説明書」に沿い十分な説明を行っている。退去時も十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けている。また、運営推進会議にてその意見を開示し運営に反映させている。	利用者の意見・要望は午後のくつろぎ・入浴時などその時々により添い思いをくみ取っている。家族の訪問は居室にて行っており、訪問時に家族から意見・要望を聞き取っている。電話にて伺う時もある。運営推進会議の議事録と共に「香椎下原たより」を送付し、事業所内の様子を知らせて喜んでもらっている。利用者・家族の意見・要望を運営に反映させている。	意見箱に投書はないとの事。設置場所・匿名性・記入用紙などの工夫をして、上がりにくい意見を、もらえるようにしてみたらどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の代表者出席の会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。また日頃の職員間の会話でも意見を集め、職員で話し合い運営に反映させている。	月1回代表者出席の会議にて意見・要望を聞いてもらう機会がある。入浴時のボードなど物品の購入も検討後すぐに対応してもらっている。日常的にも意見・気付きを聞いてもらい相談しやすい。各ユニットでも話し合いを行い、車いすを自乗する方への注意を職員全員に呼びかけた。そこでの意見を話し合い運営に反映させてもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の代表者出席の会議にて現場が円滑に動く為の意見を出し合い、話し合っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用は性別や年齢を理由とした排除は行っていない。また、職員はその機能や特技(料理・飾り付け等)を活かしていきいきと仕事にあたっている。	年齢は20歳代から70歳代と幅が広く、コミュニケーションもよく取れている。休憩場所・時間も確保されている。職員はレクリエーションが得意・元気で笑顔がモットー・菜園の手入れ(パンジー・葱・トマト・大根など)・料理・手先が器用で塗り絵・貼り絵などを利用者と一緒にするなど特技を生かし生き生きと仕事にあたっている。スキルアップ・研修参加・資格取得の支援にも前向きな体制が整っており、各々自己研鑽に励んでいる。	

R6.3自己・外部評価表(グループホーム香椎下原)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者一人ひとりがその残存能力を活かす事が出来るような関わりをもち、その人の人権を尊重するように業務中や会議の場で話し合っている。	研修はオンラインで行なっている。日常的に管理者からの指導、啓発もあり職員は理解を深めている。本人の気持ちを聞き取り、その人らしさを大切に受け止めている。残存能力を活かす事ができるよう、関わりを持ち、支援の実践に取り組んでいる。電話の取次ぎ・年賀状のやり取りなどの支援も行っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画表を作成し内部研修を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や意見交換会に参加して交流を図り、サービスの質を向上できるよう取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人からの聞き取り、ご家族や医療機関、ケアマネジャーからの情報をもとに、入居後の様子を観察しながら、本人が安心して過ごせる為の関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、入居申し込み時、ご本人との面談時に質問、相談、要望等に耳を傾け関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず何か必要なのかをご本人、ご家族と話し合い他のサービスを含めたケアプランを作成している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者様と家族同様の信頼関係を築いていきます」と事業所理念にあるように、安心出来る関係が構築できるよう努力している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外部受診等無理のない範囲でお願いし、ご家族とホームが協力しあいながらご本人を支えているという安心感がもてる関係作りに努めている。		

R6.3自己・外部評価表(グループホーム香椎下原)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが始まってからは、面会は玄関にて行って頂いていたが、今月からは居室にての面会を行っている。また、外出や外泊も様子をみながら実施していく。	家族・友人の訪問もあり、居室にて行ってもらっている。お孫さんの結婚式に参加された方もいる。訪問理美容の利用もできる。外出や外泊も様子をみながら実施していく、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めていく。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と利用者が一緒に盛り上がるような話題を提供し、また孤立している利用者には、他の利用者を交えて声掛けを行い、利用者同士が関わり合い、支えあえるような支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族や医療機関と連携を取りながら、今後の支援や相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の疎通が困難な方は、日々の利用者の言葉や仕草、表情等を通して本人本位の支援を職員で話し合いケアプランを作成している。	入居時は管理者・ケアマネジャーが自宅・施設など必要なところに訪問している。本人・家族からこれまでの生活歴・馴染みの暮らし方・要望などを聞き取る。思いを表出することが難しい方には、表情・仕草・何気ない言葉などから思いをくみ取り、本人本位の支援を職員全員で検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や生活リズム、生活環境等をご本人やご家族から聞き取り、ホームでも出来る事は継続して頂けるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や心身状態等を介護記録に残し、申し送りやミーティングにて職員間で情報共有を行い現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン見直しは定期的もしくは状態変化時にカンファレンスを行い、本人、家族、主治医の意見を反映しながら作成している。またケアプランを元にしたモニタリングチェック表があり、サービスが実施できたか毎日チェックを行っている。	職員は利用者を1～2名担当している。ケアプラン見直しは定期的もしくは状態変化時に、現場からの意見を聞きながら、カンファレンスを行っている。担当者会議では本人・家族の意向、医師・看護師などの意見をもらい現状に即した介護計画を作成している。ケアプランを元にしたモニタリングチェック表があり、サービス実施を毎日チェックしている。	モニタリングチェック表には短期目標に番号が付けられ、プランに沿ったサービス内容が書かれており、ケアプランに紐づいたサービスが行われている事がよくわかる。今後もチーム全体で取り組み、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成していかれることを期待している。

R6.3自己・外部評価表(グループホーム香椎下原)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、身体状況は介護記録、ケアの実践・結果はモニタリングチェック表、気づきや工夫は連宅ノートに記入し職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や家族の状況・希望により併設の住宅型有料老人ホームや小規模多機能ホームと情報交換を行い柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の防災訓練の参加やボランティアの受け入れ再開を検討している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、協力医であれば定期的な往診、または外部の医療機関に定期的に行かれている。また、ご本人やご家族の意向で選ばれている。	受診は本人及び家族などの希望を大切にしている。協力医は月2回往診があり24時間対応が可能である。かかりつけ医も月1～2回往診してくれる。歯科の訪問もある。医療デイケアの医師にも見てもらえる機会がある。他科受診は家族又は職員が対応し、職員は情報を共有している。事業所には2人看護師がおり安心して過ごしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が日常の関わりでとらえた情報や気づきを当施設の看護師に報告し、往診に看護師が立ち合い介護職からの情報を担当医へ報告、指示を仰ぎ適切な医療が受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホームでの情報を伝え、安心して治療に専念し出来るだけ早くホームに戻ってこれるよう支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と主治医・看護師・介護職を含め、ホームで出来る事、出来ない事を話し合い、協力し、本人の状態により看取りを受けられる体制を作っている。	重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から本人・家族と話し合いを行っている。看取りが必要になった時には、本人本位の視点で話し合いを行う。今年度は看取りの方が1名様おられた。看取りの研修は看護師が行っている。エンゼルケアは家族・看護師が行う。看取り後に話し合いを行い、職員の精神的ケアを行っている。	

R6.3自己・外部評価表(グループホーム香椎下原)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて利用者の急変時や転倒時の対応、AEDの使い方を勉強している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。緊急連絡網を作成している。台風や大雨等事前に情報がある場合は緊急対応時の職員を待機させている。	年2回の訓練を行っている。1回は夜間想定で行った。台風や大雨など事前に情報がある場合は夜勤者に加え、緊急対応の職員を待機させている。以前、職員が公民館を通し地域の防災訓練に参加したことがある。管理者が防火管理者の研修を受け終了した。5月に行なう小規模多機能施設と合同で行なう運営推進会議の時に、防災訓練を行う準備をしている。	5月小規模多機能施設と合同で行なう運営推進会議のあとに、防災訓練を行う準備をされているとの事。ぜひ防災訓練を行い、地域との協力体制がより深く構築されることを期待している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「接遇について」や「個人情報」に関しての内部研修を実施している。実践では排泄や入浴などのプライバシーに関わる時は羞恥心に配慮した対応を心掛けている。また写真の利用に関しては事前に同意を得ている。	「接遇」「個人情報・プライバシー保護」などの内部研修を実施している。排泄・入浴などの際には羞恥心に配慮した対応に心掛けている。管理者が言葉かけなどについて注意をしている。写真の利用に関しては、本人・家族から同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により思いや希望を表す事が出来ない事もあるが、出来る限り自己決定出来るよう働きかけを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所理念「個人個人に合わせた介護を実践していきます」にあるように、利用者一人ひとりのペースを大切にして支援を行っています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方にあった服装はご家族が購入している。訪問理美容を利用し、髪型は本人と話し合いながら決めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外注ながらお魚からお肉、各種麺類までパントリーは多い。季節の行事食では職員の手作り料理を提供している。また、出来る方にはテーブル拭き等をお願いしている。	おかずは外注し、ご飯・みそ汁は事業所で作る。食事形態は、粥・きざみ食・とろみをつける。菜園で取れた大根・ナスなどが食卓に添えられる。お正月の行事食は別注。季節の行事食では、職員の手作り料理が提供されている。お誕生日のケーキは職員が作り、飾りつけを利用者と一緒に行なう。お盆拭き・テーブル拭きなど、一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事を楽しむことができるよう支援を行っている。	

R6.3自己・外部評価表(グループホーム香椎下原)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量、体重はカルテに記録し主治医に報告し指示を仰いでいる。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、確認、必要に応じて介助も行っている。夜間は義歯を預り毎日消毒している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄チェック表にて声掛けや誘導を行っている。また、そわそわする等の仕草を出来るだけ見逃さないようにして声掛け、誘導を行っている。	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し声かけ・誘導することで失敗が減った。パッドの見直しは随時話し合いを行っている。排便においては便座に座ってもらったり、腹部マッサージを行う。一人ひとりの力や、習慣を活かし、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝コップ1杯の水分を摂って頂いたり、運動・腹部マッサージを行い便秘にならないよう心掛けているが、薬に頼らなければならない方もしる為主治医に相談し対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴。入浴を拒まれる方は無理強いをせず、日をずらしたりして対応している。個々の入浴の仕方を尊重している。皮膚観察の場としても活かし異常時は看護師や主治医に報告している。	週2回午前中の中の入浴を行っている。拒否がある時は時間を置き声かけをしたり、日をずらしたりしている。好みのシャンプー・石鹸なども使用できる。皮膚観察の場として皮膚に異常があった時は看護師・医師に報告し、状態によっては写真を撮る。入浴は大事なコミュニケーションの場として大事にしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった消灯時間はない。夕食後はテレビを観て過ごされる方もおられるが音や照明を徐々に落として安眠できるよう心掛けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は全職員が閲覧・押印し個人記録に保管している。処方に変更がある時は、申し送り時に口頭で伝え、連絡ノートに記載している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や興味のある事を活かし、その方の能力に応じた支援をしている。		

R6.3自己・外部評価表(グループホーム香椎下原)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	これから暖かくなってくるので、ドライブを計画している。また、外食レクも計画している。ご自宅への外出や外泊の再開も検討している。	近隣の公園に散歩に行ったり、事業所前の広い駐車場で、長テーブルを出し、お茶やおやつを楽しんだ。又、花火大会を行い、近隣の子ども達が見に来てくれた。事業所の車で「飾り山笠」を見に行った。4月には数名に分けて香椎宮の桜を見に行くようにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい為ホームでご家族了承の上、お預かりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者、ご家族からご希望があれば電話の取次ぎは行っている。また年賀状など郵便のやりとりの支援も行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の壁面に季節の飾り付けや行事の思い出を掲示している。ゆっくりとした音楽でゆっくりとした時間を過ごすべく工夫している。	事業所は、なだらかな坂を少し上り住宅街にある。隣には公園もあり、自然環境に囲まれ、すずやかな空気が流れている。リビングや廊下の壁面にはひな祭りの塗り絵・ちぎり絵が飾ってある。リビングには、ゆっくりと優しい音楽が流れ、穏やかな午後のひと時がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、入居者同士でお話しを楽しまれたり、廊下にもソファを置き一人の時間を過ごしやすように工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、エアコン、カーテン、クローゼット、洗面台は備え付け。テレビ、仏壇、化粧台など使い慣れた物の持ち込み自由。本人のスペースとして居心地よく過ごせるよう工夫している。	各部屋に洗面台がある。布団は自分の好みのもので用意している。素敵な趣きのある籐のダンス・ステンドグラスのランプなどが置かれモダンなあしらいになっている。塗り絵が好きで丁寧にカラフルに作製した絵が飾られている居室もあり、それぞれに、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や共用部分には手すりを設置。トイレには「便所」、お風呂場には「お風呂」と掲示しすぐにわかるよう工夫している。各居室にはご家族の了承のもとお名前を貼って自分のお部屋、他者のお部屋とわかるように工夫している。		